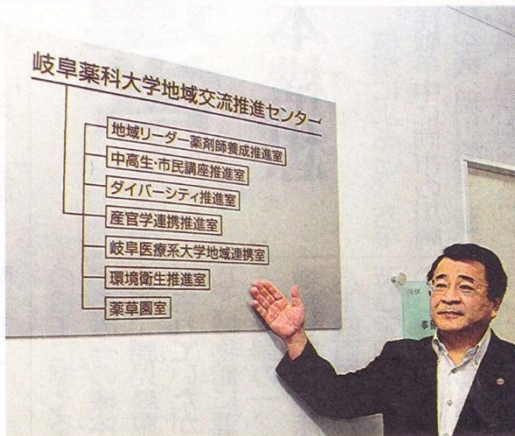


地域交流推進センター設置 岐阜薬科大

薬学に関する人材を育て、研究成果を地元で役立てようと、岐阜薬科大(岐阜市大学西)は1日、同大本部内に「地域交流推進センター」を設けた。

センターは、薬学の出前講座を行う「中高生・市民講座推進室」や、薬草への知識を広める「薬草園室」など七つの分室で構成。このうち、「地域リーダー薬剤師養成推進室」では、寺町ひとみ教授(病院薬学)の研究室が中心となり、薬剤師の仕事から離れた人を



本部学舎に設置されたセンターの看板を紹介する原英彰センター長＝岐阜市大学西の岐阜薬科大で

再教育し、地元の医療施設や薬局などで働いてもらうことを目指す。センター長には、原英彰副学長が就任。原

(督あかり)

地域連携や教育活動推進センターを設置 岐阜薬科大

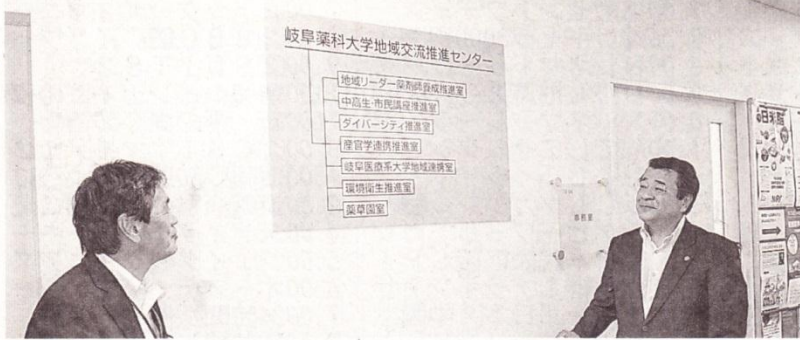
岐阜市の岐阜薬科大学は1日、地域連携活動の推進と教育研究活動などの活性化を目的とした「地域交流推進センター」を設置した。

同センターは、地域医療のリーダーとなる薬剤師の養成や、学内で女性が活躍する場の拡大など7分野から構成。具体的には、免許を持ちながら、現場から遠ざかっている薬剤師を再教育して地域医療のリーダーとなる薬剤師を養成。また、

学内の女性研究者を対象に研究費の支援枠を設けて活躍を後押ししたり、市内の中高生を対象にした出前講座を実施したり、薬草園を活用して薬草や生薬の知識を広めたりするなどしている。

同センター長に着任した、原英彰副学長は「市立大学としてより住民の要請にあった取り組みを行い、貢献していきたい」と話した。

地域交流推進センターの看板を除幕する原英彰副学長(右)ら
＝岐阜市大学西、岐阜薬科大



薬剤師の地域貢献推進

岐阜薬科大(岐阜市)は1日、地域と連携した活動を推進し、教育・研究を活性化するための組織「地域交流推進センター」を設置した。センターには、薬剤師の資格を持ちながら業務から離れている人に卒業教育を行い、在宅医療などで活躍できる

付属薬局での研修を通して有資格者に自信を取り戻してもらい、「かかりつけ薬剤師」として寝たきりの人の自宅を訪問した服薬指導に乗り出してもらうなど、地域医療に貢献できる人材を育てる。

センターには女性の活躍の場を広げるための「ダイバーシティ推進室」も新設。女性研究者の割合(現在13・6%)を20%

センターには女性の活躍の場を広げるための「ダイバーシティ推進室」も新設。女性研究者の割合(現在13・6%)を20%

有資格者に卒業教育、人材養成

人材を養成・認定する「地域リーダー薬剤師養成推進室」など七つの室を置いた。

に高める目標を掲げ、女性が引張る研究を後押しする国補助金を活用して業績を挙げられるよう支援したり、女性研究者の講演会を開いてキャリアアップの参考にもったりする。

センター長に就いた原英彰副学長(57)らが同日、同市大学西の同大本部でセンターの看板を除幕した。

中高生・市民講座推進室、岐阜医療系大学地域連携室、薬草園室などもセンターに位置付けた。

地域リーダー薬剤師の養成は、薬剤師が不足している現状を背景に年内に始める。講義や

を背景に年内に始める。講義や

(小森直人)